

2021年3月8日（月）

『日本経済新聞』（朝刊）

## 交遊抄

## 日米の真ん中に立つ人 井筒 俊司

神戸大大学院教授の箕原俊洋さんとの付き合いは15年を超す。南カリフォルニア出身の日系4世で自称「関西を愛するカリフォルニア人」。神戸と米国を拠点に日米関係史を長年研究されている。

2004年、航空自衛隊の防衛課で在日米軍基地の再編事業を担当していた私は、シアトルに渡る機会を得た。日米の若者が交流する「日米リーダーシップ・プログラム」に参加するためだ。この会合で当時神戸大の助教授だった箕原さんと出会った。

日米双方の人脈は豊富。日本人と米国人、双方の視点で安全保障問題を合理的に分析する彼とすぐに意気投合した。私も職務上、米軍と交流する機会が多かったが、彼と語り合つと私の視点が無意識に日本側に偏っていたと気づかされた。

翌05年には防衛研究所で戦前の日米関係史を学ぶ私を手伝ってくれた。ペリー来航から移民排斥運動まで、日米間に横たわっていた諸問題について惜しみなく解説してくれた。太平洋を挟む両国が平和を築くまでの苦難の歴史を長年研究してきた彼から多くを学んだ。

18年、神戸市の自宅に招いていただいた。米国流の家族主義のスタイルにさすがしさを感じた。これからも日米の真ん中に立って私を導いてほしい。（いつつ・しゅんじ＝航空幕僚長）